

<平成27年度事業報告書>

【概況】

本年度も、当協会の抱える諸問題（財務体質の改善、魅力あるレースの開催、加盟団体増加対策、レースの安全対策）の解決に向けて取り組んできた。

財務体質の改善については、国体の余波が無くなり各本部とも収支を意識しつつ、実施事業を着実にいったため、計画の範疇で推移するようになり危機的状況からは脱することができたと言える。但し、普及事業や協会広報PR等の拡大を考慮すると収益性を上げる努力が必要である。

魅力あるレースの開催に向けては、地方協会としては例の少ない2,000mレースを実施した。また、将来を担う小中学生の出漕料を見直し、首都圏のボート競技の裾野拡大に努めた。これらの展開が、将来の加盟団体増にも繋がるものと思料する。

以上のように、各本部ともに問題解決と成長戦略を意識した活動を思考するようになった。その一つの成果として、従来は事業計画の遂行で手一杯だったが、本年度は全国中学選手権の荒天中止を受けて、協会関係者の発案で代替救済レースの開催に漕ぎつけたことは記憶に新しい。

来年度以降、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、より一層の事業強化と多角化を求められる当協会にとっては、非常に明るい材料である。

各本部の事業報告は以下の通りである。

1. 競技開催事業

別表1の通り競技会を開催した。

2. 普及事業

- ・今年も谷古茂盾争奪マスターズ、小学生交流レガッタを開催し、老若男女がレースに臨み、ボートを楽しんだ。小学生交流レガッタは強風の為一部中止となり、順位付けをせず全員敢闘賞となった。詳細は別表2の通りであった。
- ・ボート競技の底上げと競技人口の増大を目的として、従来から東大島、多摩川、水元、日本橋川、東墨田の都内5拠点を中心にボート教室、マシンローイングイベント等を展開してきた。中でも今年度多摩川において、オリンピックのサポートのもと、新たに地元自治体、小学校、イベント業者と共同で、ボート教室、マシンローイングのイベントを行い、盛況裏に終了することができた。詳細は別表3の通りであった。また、ボート教室等の施設の充実を目的として、各関係機関に働きかけた結果、墨田区平井橋付近の旧中川沿いに艇置き場、船着場が整備された。
- ・今年度は中学生の全国大会が荒天のため二度にわたり中止となり、急遽東日本中学選手権夏季競漕大会、東日本中学新人選手権に出漕した。その他、小中学生が各水域のローカルレガッタに積極的に出漕し、活躍がみられた。

3. 強化事業

- ・東京都代表クルーのブロック大会、国体結果は、別表4、5の通りであった。
- ・当協会所属選手の海外大会への参加状況は別表6の通りであった。
- ・和歌山国体に向けて選手の強化、競技力向上を図った。
- ・ジュニア選手を対象に強化合宿および講習会を実施した。
- ・トップアスリート事業を無事終了し、3名がボート競技を選び、現在進学先の高校で部活動およびクラブチームで活動している。
- ・トップアスリート6期生については専門プログラムを実施。(平成28年3月終了予定)

4. 事業報告の付属明細書

平成27年度事業報告には「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。